

科目名	環境エネルギーの基礎			ナンバリング	REC351	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	坂本直道	担当教員					

授業の概要	我が国および世界の喫緊の課題である環境問題ならびにエネルギー問題について理解し、これらの問題に対する政策や手法に関する知識を習得することを目的とする。 本科目では、主に「環境問題の実状と対策」および「エネルギー問題の実状と対策」について講義する。
到達目標	1. 環境問題の原因・実状・対策を説明できる。 2. エネルギー問題の原因・実状・対策を説明できる。 3. 環境問題およびエネルギー問題を解決できる人材としての素養を身につけられる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	「地球環境の科学」を履修していることが望ましい。 インターネットニュースや新聞などでは日々環境やエネルギーに関する情報が伝えられているので、これらの情報をチェックしておくことが望ましい。 キーワードを調査する事前課題を課す。辞書などを丸写しするのではなく、自身が理解できよう自分なりの文章で表現することが望ましい。そうすることで、講義内容がより理解しやすくなる。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 事前課題が正しい文法で的確に記述されている。 2. 授業中に課す小論文が正しい文法で書かれており、授業内容が反映されている。 3. 環境問題およびエネルギー問題の基本的事項を説明できる。	1. 事前課題が文献の丸写しではなく、オリジナルな文章によって論理的に記述されている。 2. 講義中に課す小論文に自分の意見が記述されている。また、事前課題の内容が反映されている。 3. 環境問題・エネルギー問題の原因・対策・展望を関連づけられ、かつ時系列に順序立てて説明できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					40%
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		30%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしない

課題、評価のフィードバック	1. 事前課題や授業中の課題に対し、希望者には添削して返却する。 2. 事前課題・小論文・定期試験の採点結果をmanab@IMUIに掲載する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方や到達目標について説明する。	
	第2回	持続可能な社会の構築	環境問題の要因・区分・対策の概要および持続可能な社会について解説する。	
	第3回	地球と自然環境	地球をひとつのシステムとして考えたときの構成要素とそれらの働きについて解説する。	
	第4回	人間活動と環境問題1	日本における環境問題への取り組みの変遷および大気汚染・水質汚染・土壌汚染・ヒートアイランド現象の原因・対策について解説する。	
	第5回	人間活動と環境問題2	地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨の原因・対策について解説する。	
	第6回	環境をめぐる世界の動き	環境問題に対する国際的な取り組みについて解説する。	
	第7回	環境と社会	日本における環境問題と社会の関わりについて解説する。	
	第8回	環境と経営	環境問題と企業活動の変化および現状との関係について解説する。	
	第9回	環境と生活	環境問題と市民の関わりについて解説する。	
	第10回	地球システムと資源の形成	種々の資源の形成過程について解説する。	
	第11回	エネルギーの種類と性質	エネルギーの種類ならびにエネルギーと環境とのかかわりについて解説する。	
	第12回	世界と日本のエネルギー事情	世界と日本のエネルギー事情の変遷と現状について解説する。	
	第13回	再生可能エネルギー	再生可能エネルギーの種類およびそれぞれの特徴・導入状況について解説する。	
	第14回	エコマテリアル	エコマテリアルの概念および設計方針について解説する。	
	第15回	まとめ	第1回から第14回の講義内容の復習および要点整理を行う。	
	試験	期末試験を実施する。試験範囲は全範囲とする。		
授業の進め方		基本的に60分程度の講義を行い、小論文の作成を30分程度行う。講義で使用するスライドは事前にmanab@IMUIにアップしておくので、各自、タブレットにダウンロードしておくこと。		
授業外学習の指示		事前課題を課すので、授業の終了後に提出すること。また、授業の後半にも課題を課し、次回の事前課題を配付する。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	なし
参考書	なし
参考URLなど	なし
その他	再試験や追加課題による補充考査は行わない。 授業中の不要な私語、スマートフォンの使用、出席管理システムの不正利用を見つけた場合、警告なしに減点する。